

平成19年度 事務事業評価表						
(様式1)						
記入年月日	平成19年3月30日	記入者		連絡先	2684	
平成18年度部名	保健福祉部	課名	障害福祉課	課長名	篠崎 正義	
平成19年度部名	福祉部	課名	障害福祉課	課長名	原 修	
事務事業名	在宅障害者家庭内作業指導事業					
予算上の事務事業名	在宅障害者家庭内作業指導運営費					
1 総合計画における位置づけ	施策コード			11310		
基本目標	「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして					
政策名	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります					
基本施策名	第3節 障害者の自立支援と社会参加					
施策名	第1施策 自立した生活を実現するための環境づくり					
2 実施根拠及び関連法令・条例・規則・要綱等	相模原市在宅障害者家庭内作業指導事業補助金交付要綱 相模原市在宅障害者家庭内作業指導事業実施要領					
3 個別計画の概要	概要					
計画名	相模原市障害者福祉計画			障害者を主体とした施策を総合的に推進し、各種サービスを体系的に提供する。実地計画（前期H10～14、中期H15～18、後期H19～22）		
計画年次	10	年度～	22	年度		
4 事業形態の区分	助成(給付・補助・貸付)			5 事業開始年度	昭和63年以前	
6 事業概要	(1) 事業の目的(何のために行うのか、またはもたらしたい成果)					
障害者の地域ケア対策推進の一環として地域ぐるみの協力により、外出困難な在宅障害者を対象に家庭内のできる作業を提供、指導し、働くよこびと社会参加の意識を高めることを促進するとともに、これら障害者が行い得る作業内容や作業能力を調査し、効果的な訪問、指導方法等を研究し、この調査研究の成果を具体的に実施することにより、障害者の福祉向上を図るもの。				(2) 対象(誰、何)		
				事業の目的を行う社会福祉法人等		
(3) 平成18年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
市内にある在宅障害者家庭内作業指導事業所1箇所に対して、運営費及び人件費等の補助金(主に人件費となる)を交付した。						
・ 運営費・・・登録者数の人数に応じてAランク(20名以上)5,100,000円、Bランク(15名以上19名以下)4,800,000円、Cランク4,500,000円						
補助割合等						
・ 交付団体数 1法人1事業所(社会福祉法人すずらんの会)						
・ 補助金額 補助額がほぼ運営費総額となる						
7 関連事業・類似事業又は他市の状況	関連事業としては、障害者が自ら通所し、支援を受けている「作業所」があげられる。県内で本市のみ実施(横須賀市は、平成18年度をもって事業を終了)					
8 事業費の推移	〔単位：千円〕					
年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
事業費	4,800	4,500	4,500	4,500	4,500	
一般財源	4,800	4,500	4,500	4,500	4,500	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	0	0	0	0	0	
人件費の合計	390	390	390	390	390	
事業コスト合計	5,190	4,890	4,890	4,890	4,890	
9 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率						
事業名 (主たる事業名)	在宅障害者家庭内作業指導事業			対象名称 と単位	在宅障害者家庭内作業 指導事業数	
年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
事業コスト(主たる事業)	5,190	4,890	4,890	4,890	4,890	
対 象 数	1	1	1	1	1	
単位あたり経費(円)	5,190,000	4,890,000	4,890,000	4,890,000	4,890,000	
前 年 度 比		0.94	1.00	1.00	1.00	

1 0 活動指標・・・実施した内容（活動）を数値化したもの					
指標名と単位	利用者数	指標式と指標の説明		当該年度利用者数/平成16年度利用者数×100（平成16年度利用者数を基準とする）利用者数を把握することで、障害者に働くよるこびと社会参加の意識を高めることを促進した数値が把握できる。	
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	100.0	86.0	86.0		
目標	100.0	105.0	110.0	115.0	120.0
目標達成度（%）	100.0	81.9	78.2		
1 1 成果指標・・・もたらしたい成果の達成度を数値化したもの					
指標名と単位	賃金(円)	指標式と指標の説明		当該年度平均工賃 平均工賃を把握することで、障害者に働くよるこびと社会参加の意識を高めることを促進した成果の数値が把握できる。	
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	810.0	1669.0	1784.0		
目標	1000.0	1000.0	1700.0	1800.0	1900.0
目標達成度（%）	81.0	166.9	104.9		
1 2 個別評価					
(1) 妥当性の評価 [A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない]					
A	<input type="checkbox"/>	・法令、条例により実施することが義務付けられている。			
	<input type="checkbox"/>	・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 [A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない]					
A	<input type="checkbox"/>	・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 [A：効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い]					
A	<input type="checkbox"/>	・単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・再任用や非常勤職員などを活用しても、これ以上のコスト節減の余地がない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力または市民協働の導入の可能性〔有・無〕					
無	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、市民協働により推進する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部に民間委託を導入しているが、さらに民間委託を導入しても効果が見込めない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・市で実施する方が民間委託等をするより適している。			
1 3 総合評価（一次評価）					
(1) 自動判定結果					
	〔 〕：良好な状態を維持する事業				
	〔 〕：概ね良好な状況である事業				
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業				
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 事業所管課長による評価（今後の方向性）			(3) 事業所管課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			
当初県事業として開始（昭和56年度）された事業であるが、中核市に移行してから市単事業となっている。県内では、本市のみが実施している事業であるが、障害の特性により施設通所をすることができない障害者に対する支援として必要な事業であると考えられる。					
1 4 成果向上及び効率性を高めるための方策			1 5 課題として認識されたこと		
在宅障害者に対し、職員が自宅まで出向き、就労の意欲を高めながら障害者の個々の状況に適した支援を行っている。作業の内容が、現在1種類（防虫剤の組立作業）であるので、種類を増やし、就労に対する意識及び能力を高め、将来施設等への通所が可能となる支援内容としたい。			利用者が高齢であるため、支援方法の検討が必要である。		
1 6 二次評価					
(1) 局内評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			